

実習日：平成 28 年度第 I 期 6 月 29 日

実習先：大分三愛メディカルセンター

大学名・学年：福岡大学 5 年

氏名：宮村 友梨子

中学校の時にゆふみ病院の先生の講義を聞いていたのでホスピスについて少し知識はあったのですが、実際に訪問してまず病院内の雰囲気がとてもやわらかかったです。

バリアフリーの広い空間や照明など患者さんへの配慮を感じました。

今回薬剤師の先生のほかにもソーシャルワーカーの方や医師の先生、ボランティアで訪問されている方からもお話を聞かせていただき、患者さんだけでなく患者さんの家族もサポートし、「ホスピス＝末期癌の患者さんの入院する病院」ではなく「ホスピス＝患者さんの痛みをコントロールし日常生活を送ることで生きる力を支えていく」場所であり、外来で疼痛コントロール治療を受けることも可能であると知り少し印象が変わりました。

先生もおっしゃっていましたが、患者さん、そしてご家族に安心して入院生活を送れるように医療スタッフの方々がチームとなって努力し取り組んでいるのだと痛感し、ボランティアの方が「ここに来ると元気がもらえるので何年も続けさせてもらっている」と言われるのを聞き、相手に見返りを求めず支える姿はとても尊いことだと感じました。

今回、大分ゆふみ病院での一日実習をさせていただき、たくさんを感じ、学びました。短い時間ではありましたが、将来チーム医療の一員となるため、そして人として成長するうえでの大きな糧となりました。このような機会を与えてくださった先生方に深く感謝します。